

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目
 ↓

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が自分らしく生活できるように「自由意志・自由選択」と理念を掲げている。それに向かって日々努力している。自分の意志をうまく伝えられない入居者もおられるので、スタッフが気配り・見配り・心配りを徹底している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者の意見を尋ね、本人に選択して頂き、入居者にとってよりよい日々を過ごせるようにケア行っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	利用者が望んでいることなどがあれば、ご家族へ相談させて頂き、実現へむけて検討している。難しい際は、スタッフの体制を整え対応している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方に、気軽に声をかけあったり、挨拶を交わしている。また近隣の方の協力で離ホームされた方を早期に発見できたこともある。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣で催される祭りなどに見学に行ったり、週2回は近隣へ買い物に行ったりして地元の人々と交流をとっている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	小学校などから、昔の遊びなど、お年寄りとの交流会をお願いされれば、お受けし、そのお手伝いをおこなっている。今後も依頼があれば積極的に受け入れていきたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善することがみつかれば、それに向けて、検討・実施することで施設の質を向上させる努力を行っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員・役場の方々へ、意見がでたり、ホーム内の知らないことなども知ることによりよい交流が図れている。今後もっと意見を出し合い、家族の気持ち・近隣の方の気持ち・スタッフの思いなど共感していきたい。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場から依頼された見学・実習依頼を受け入れることで、他者からの視線を感じるようにしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、必要な家族がいれば相談にのっていききたい気持ちはある。また、スタッフが勉強することで、ホーム内だけではなく、外部の相談にものっていければいいと思う。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	知らず知らずで発している声かけが、言葉の虐待になっていないか自分自身に問いかけるようにきがけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約・解約を行う際は、何度も疑問がないか声をかけるようにしているし、言いやすい環境・雰囲気づくりを行っている。また、契約書(重要事項説明書)は、自宅でもう一度目を通して下さいと伝えている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常に利用者・家族がスタッフに対して不満・苦情が話せる環境づくりを行っている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回の利用料支払日・面会時に、ご家族へ近日の状態報告を行うようにしている。早期に伝達しなければならない際は、電話 連絡している</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族が言いにくい意見・不満を直接言えないかもしれないと思いご意見箱を玄関へ設置している。また、直接伝えられない際は、他の公共施設へ連絡して頂くように重要事項説明にも掲げている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回スタッフ会議を行い、スタッフの意見交換を行っている。また言いやすい雰囲気づくりを行っている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>「今日これがしたい」と言われて、すぐにできないが、その要望に応じてスタッフの勤務を調整できる人材確保は行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は年に一回程度か、スタッフの身体的・精神的理由で行っている。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員採用は資格・年齢(定年未満)・変則勤務が可能かなどによって検討している。業務・行事等の担当を決め、やりがいのあるように努めている。また、働きやすい環境・人間関係をつくれるようにスタッフみんなで、きがけている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>何かよい資料があれば、その資料を通して再確認を行っているが、なかなかわかりやすい資料がないので、研修に参加するなどしていききたいと思う</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スタッフ全員での勉強会・グループホーム部会の研修会に参加している。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他ホームへ分からないことあれば相談したり、また他ホームより依頼あれば実習・見学を受け入れている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>連続出勤にならないように勤務表をつくり、連休・有給・誕生日休暇などを提供している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員一人一人の業務内容・勤務状態を把握し、業務・行事等の担当を決め、責任感が持てるように、またスタッフの意見を取り入れていけるように努力している。勤務状況を把握して、昇給など検討・対応している。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人が願っていること・ケアの統一ができるように、記録に一つ一つ残し、本人にとってどうすれば一番安心して寛げる生活ができるかスタッフみんなで検討している日々である。利用者一人一人の何気ない一言を聞き漏らさないようにきがけている。</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族の今までの介護への努力・疲れ・ストレス・不安をすべて受け入れ・傾聴してから、契約へのお話をおこなうようにしている。</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談に来られたら、まず介護者の現状をお聞きし、一番心配される今後の利用料金の説明をして、ホームでの生活内容を説明しながら、ご家族のしてほしい要望をお伺いしながら支援内容を計画している。</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>まずご家族へ見学に来て頂き、ご家族がホームの雰囲気を気に入られたら、その後ご家族の都合に合わせて、また本人さんの精神的状態に合わせて再度ご見学に来て頂いている。その時にご家族より状況報告して頂く。本人にして欲しいこと、実際のレベルを判断しながらケアを行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者がスタッフのお手伝いをして下さったり、スタッフが入居者に怒られたりすると、他利用者がかばって下さったりの関係づくりが出来ている。利用者、スタッフともに、「ありがとう」とお礼を言い合える関係づくりを行っている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	何かあればご家族へ報告・伝達して、ご家族の協力も得ながら、本人にとっての一番のケアを共に考えている。またご家族も協力的である。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの本人の生活歴など、ご家族にお伺いしながら、スタッフと利用者のコミュニケーションに役立てたり、利用者と家族の関係づくりを維持するように役立てている		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	Aコープへ買い物に行ったりして、地元の方・近隣・親戚の方に会われ会話される場面多い		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の、性格が合う合わないなど把握し、食事配置・ソファでの過ごし方・配置など、検討し対応している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了後、どこかで偶然あったりしたら挨拶は行うが、今現在、継続的な関わりが必要な方はおられない。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に意見を尋ね、本人に選択して頂き、入居者の体力・性格を把握したうえで、サービスを検討している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族・親族の方へ、その時の勤務スタッフが本人の生活歴やエピソードをお伺いし、記録へ残すようにしている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の毎日の生活を記録に残すことにより、気づき・発見があれば、そのことを抽出して今後のケア目標・計画にあげている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・ご家族・病院からの指示など一つ一つ記録に残し、そのことを介護計画へ練り込み、スタッフ会議にて介護計画の内容を検討し合い、家族へ報告する。その後ご家族より内容把握の印・意見頂き、今後につなげている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直し前に計画変更がある際は、記録に変更理由・内容を記入し、ケア統一を図っている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・情報収集へ気づきの記録を確実にを行うようにスタッフへ指導し、情報の漏れがないようにしている。その情報を月1回スタッフ会議にて報告・伝達し合い、介護計画へ活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その要望によるが、できることは行うが、今日のスタッフだけでは難しい時(人数確保など)は次回に検討したりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	依頼があれば、ボランティア受け入れや、年2回の消防訓練時は地元消防署からの指導を頂いている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用開始時・退居時にケアマネージャとの情報共有をおこなったりしている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターとの協働はない。必要なことができれば、協働していく気持ちである。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意向を聞きながら、ホームの担当医にするか、本人のかかりつけ医にするか検討している。最終的にはご本人・ご家族の意向を尊重する。実際にうちの担当医以外のかかりつけ医の方もおられる。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師が精神科におられるので、なにかあればその病院を受診・相談にのって頂いている		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	病状把握・ワーカーへの病状指導をいつでも行えるように、看護師2名採用している。またかかりつけ医の看護師にも相談にいつでものっていただける関係づくりを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院した時点で、ご家族と話し合い、ホームでどこからなら診れるか、かかりつけ医・看護師と話し合いながら、長期入院を避けている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期の判断をかかりつけ医が判断し、かかりつけ医からご家族へ今後どうしていくか尋ねられる。その後ホームから終末期についての契約書にサインをして頂いている。その後はこまめな情報伝達を行うようにしている。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>変化があれば、すぐにかかりつけ医に報告・また出来ないことが出て来れば、スタッフ同士で話し合い、終末期の最後の最後まで検討し続けている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ご家族が中心になって、今後のことについて検討していく。ホームではそれまでの体調管理・かかりつけ医との調整などを行っている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉かけについては、初心忘れないように時々勉強会を行い、意識するようにしている。記録物は常に記録していないときは、ボックス内に入れて、外部者・面会者の目につかないようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	今から何をするのか声かけし、本人の要望・選択して頂くようにしている。しかし、本人にとって不利になることは、強制的に行わなければならないこともある。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者へのケアに対しての決まり事は優先するが、本人のペースをくずすような決まり事はないので、本人の思うようにして頂く。しかし、本人の怪我はないように見守り・対応は必要である。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	スタッフに美容師の資格を持っているものがあるので、ご家族・本人がその者で良いと言われるならホーム内の散髪日に…。本人が染めたり顔剃りしたいとなれば、専門の美容室へ行ってもらっている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で、スタッフがフォローしながら食事の切り込み・盛りつけ・配膳・お茶くみをして頂き、役割を与えることで、生き生きとした生活が行えるようにしている。また、本人への負担がみられれば、その都度検討しながら対応している。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人からの希望あれば買い物時に購入したり、ジュースが好きな人は水分補給の飲み物をジュースにしたりしているが、日常的にお酒を楽しめるまではしていない。本人から要望あれば、その要望を受け入れる構えはある。しかし、病的なことが絡めばかかりつけ医・ご家族へ相談して検討していきたい。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	2、3時間おきにトイレ誘導を行い、トイレでスッキリして頂くようにしている。本人が苦痛にならないかぎり、トイレ誘導を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴を行っているので、本人が拒否される時・体調不良がない限り毎日入浴して頂く。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室で一人過ごせる方は、本人に居室で過ごすリビングで過ごすか尋ねたり、見守りが必要という方はリビングの畳で過ごして頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のレベルに合わせて役割づくりを行っている。また月2回外出日を決め、外出希望者はリフレッシュを図っている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族・本人の希望があれば、お金を所持し、本人が管理している。また買い物日・外出日に使っている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	時間があるときには散歩へ出かけたりしているが、頻回に出かけることはない。春・秋など季節的に過ごしやすい時期は、機会をみつけては散歩へでかけ季節の風を感じて頂きたい。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人より希望があれば、ご家族へ相談してお出かけさせたり、ご家族が難しいといわれれば、スタッフの調整行い検討している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があればご家族に了解を得て、電話に対応して頂いたり、年に一回は、暑中見舞い・年賀状をご家族・親族に郵便するお手伝いを行っている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族の様子をみて、居室でゆっくり過ごして頂いたり、リビングでみんなと本人さんのエピソードをお話したり和気藹々と過ごせる空間づくりを実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生命・怪我等に、危険を及ぼさない限り拘束は行わないようにしているが、やむを得ず行う場合は、家族へ了解を得て拘束するようにしている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者不穏時は玄関は開放したり、施錠したりしている。しかし、興奮がひどい際は、正門を施錠して、なるべく近隣の方々へ迷惑がかからないようにしている		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	水分補給の時間に所在確認を行って居る状態で、その時間に居室で過ごされている方の状況をチェックしている。また、玄関センサーのベルがなれば、所在確認を怠らないようにしている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理	手を洗う液体石けんを飲用されたりされると、一時的に鏡の裏になおしたり、使われる方いれば、出したりと、スタッフが見守り・観察しながら対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故は未然に防ぐように心がけているが、事故が起きた際は、素早くヒヤリハットを記入して、今後同じような事故が起きないように対策を行っている。		事故は起こさないように、常にスタッフはアンテナを立てている。「もしかしたら・・・」の気持ちで見守り・対応している。
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変があれば、今後の対策を看護師へ指導して頂く。急変がありそうな疾患者は、あらかじめ対応の仕方を受けておく。また、ケアプランにも対応の仕方をあげており、ケアカンファレンス時に再度、確認している。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署より訓練指導を受けている。地震・水害対策はおこなったことがないので、今後訓練にあげていきたいと思う。又、火災は起こさないように指導していきたい		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時・月1回の支払い時などに状況報告・対応報告を行い、ご家族の意見・了解を得るように心がけている。なかなか面会に来られない家族へは、電話連絡を行うようにしている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝・夕のバイタルチェック・表情観察を行い、特変ある際は、他のスタッフ・看護師・ホーム長・担当医へ報告し、早期対応するようにしている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の薬効をファイルし、時間のある際に目を通している。又薬の変更・副作用に留意して欲しいことは、記録しスタッフへ情報伝達行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日便通の状態をチェックし、食欲不振・腸閉塞の危険がないように対応(牛乳・ヨーグルト・水分補給・薬物療法)をしている。薬物療法の調整は、本人にあまり苦痛がないように、失敗しない程度になるように日々検討・対応している。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行い、残渣物による誤嚥性肺炎などに留意している。食欲ない際など、口腔ケアを行いながら口腔内の炎症をチェックしたり心がけている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	動く量と食べる量を調整したり、食事量が少ない方は、担当医に相談しながら高カロリー飲料を摂取したり、咀嚼力・嚥下力を把握しながら食事の提供の仕方を検討して栄養状態を維持している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザについては、ワクチン接種を行い、感染については担当看護師より、資料・指導を行っている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	月1回、冷蔵庫・食材倉庫・調味料ケースなど掃除を行っている。食材は週2回買い物へ行き、肉類はすぐに冷凍し、2・3日の間に使用するようになっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関からホームはバリアフリーで出入りしやすい環境である。施設の雰囲気より自宅の雰囲気を出し、固い感じをださないような園芸を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電気・壁の色など、安らぐ色を勉強して設置している。また、入居にとって過ごしやすい・動きやすい(動線)空間を提供している。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあう利用者同士を隣席したり、本人が移動されたり、トラブルにならないように、苦痛がないように対応している。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、ご家族が用意されたものを設置して、本人にとってプラスになるものは追加して頂いたり、マイナスになるものは撤去して頂いたりしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は意識しており、汚物は袋に包んで捨てたり、残飯はホーム外へ捨てるようにしている。空調も暑すぎず、寒すぎずを心がけ、利用者へ声かけて空調管理している。寒い・暑いなど自分の意志をうまく伝えられない入居者もおられるので、スタッフの気配り・見配り・心配りを徹底している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差の一切ない建物・車椅子で使用できるトイレ・車椅子が離合できる廊下の空間・自分で電気のつけ消しが出来るスイッチの高さ・ひもの工夫をしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室とトイレには表札をしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	バリアフリーのベランダを広く開放し、外の風を感じたりしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

* 記録を通して入居者へのケア統一を確実にやっている。本人の出来ること、出来ないこと・得意なこと、苦手なことを把握している。また入居者の状況に応じて瞬時に検討・対応出来る能力を持ったスタッフを確保している。